

<経済学部 経済学科>(中学校一種免許状(社会))

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	経済学科では、市場を基盤とした経済の理論・歴史および政策を教育することで、国内外・地域社会が抱える諸問題に応用可能な解決能力を備えた人材の育成を目指している。この経済学科の教育理念に則り、教職課程履修生は教育の基礎的理解に関する科目では、1年次前期に「教師論」「発達・学習過程論」を履修し、教員に求められる資質能力のうち、特に、教員の職務内容や生徒の発達に対する理解を深めることを到達目標としている。又、教科及び教科の指導法に関する科目では、「日本史Ⅰ」「地理学Ⅰ」などの社会科分野の包括的科目を中心に履修し、教科(社会)指導の基礎的な知見を修得する。
	後期	経済学科1年次後期では、前期に引き続き副専攻科目と主専攻科目(基礎科目)などの履修に加えて、自由選択科目として「キャリアデザイン入門」を開設し、学生各自の進路について熟慮する機会を与え、望ましい勤労観・職業観の形成を図っている。教育の基礎的理解に関する科目では「教育原論」「教育社会学」を履修し、教育の理念・歴史及び思想や社会的・制度的又は経営的事項についての見識を深め、「中学社会科教員」としての資質の向上を目指す。
2年次	前期	経済学科2年次前期からは、経済学分野における主たる理論を主専攻科目(基幹科目)として配置し、学生が専門的な学びに円滑に進むことができるように配慮している。教育の基礎的理解に関する科目では「教育課程論」、教科及び教科の指導法に関する科目では、通年科目である「社会・地歴科教育法」「社会・公民科教育法」「マクロ経済学」「ミクロ経済学」、道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目では「特別活動の指導法(総合的な学習の時間の指導法を含む)」「教育方法論」「生徒指導・進路指導論」「教育相談の理論と方法」などを履修し、社会科教員として必要な教科指導の方法・授業づくりの力量を身につける。
	後期	経済学科2年次後期では、前期に引き続き、教科及び教科の指導法に関する科目として、「社会・地歴科教育法」「社会・公民科教育法」などの履修に加えて、教育の基礎的理解に関する科目では「道徳教育の理論と方法」などを履修し、社会科教員として必要な教科指導の方法・授業づくりの力量を深める。
3年次	前期	経済学科3年次前期から、教育の基礎的理解に関する科目では「教育制度論」、教科及び教科の指導法に関する科目として「環境経済学」などを履修し、教育の理念・歴史及び思想についての知見を深め、さらに、社会科教員に不可欠な教材解釈力を高める。
	後期	経済学科3年次後期から、教育の基礎的理解に関する科目では「教育思想史」「教育心理学」、大学が独自に設定する科目として「教職課題探求実践」、教科及び教科の指導法に関する科目として「経済地理」などとあわせ、副専攻科目を履修し、生徒の心身の発達についての知見を深め、教員の資質として不可欠な対人関係能力や生徒への教育愛を高め、教員としての使命感や責任感を強める。
4年次	前期	経済学科4年次前期から、教育実践に関する科目では「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」、教科及び教科の指導法に関する科目の履修を通して、社会科教員の資質として不可欠な専門的知識・技能及び授業づくりの力や授業における表現力を獲得する。
	後期	経済学科4年次後期から、教育実践に関する科目では「教職実践演習(中・高)」の履修を通して、教員として必要な資質(使命感・社会性・生徒理解・指導力)や社会科教員として最小限必要な専門的知識・技能が確実に身についたことを確認する。

<経済学部 経済学科> (高等学校一種免許状(地理歴史))

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	経済学科では、市場を基盤とした経済の理論・歴史および政策を教育することで、国内外・地域社会が抱える諸問題に応用可能な解決能力を備えた人材の育成を目指している。この経済学科の教育理念に則り、教職課程履修生は教育の基礎的理解に関する科目では、1年次前期に「教師論」「発達・学習過程論」を履修し、教員に求められる資質能力のうち、特に、教員の職務内容や生徒の発達に対する理解を深めることを到達目標としている。又、教科及び教科の指導法に関する科目では、「日本史Ⅰ」「地理学Ⅰ」などの包括的科目を中心に履修し、教科(地理歴史)指導の基礎的な知見を修得する。
	後期	経済学科1年次後期では、前期に引き続き副専攻科目と主専攻科目(基礎科目)などの履修に加えて、自由選択科目として「キャリアデザイン入門」を開設し、学生各自の進路について熟慮する機会を与え、望ましい勤労観・職業観の形成を図っている。教育の基礎的理解に関する科目では「教育原論」「教育社会学」を履修し、教育の理念・歴史及び思想や社会的・制度的又は経営的事項についての見識を深め、「高校地理歴史科教員」としての資質の向上を目指す。
2年次	前期	経済学科2年次前期から、経済学分野における主たる理論を主専攻科目(基幹科目)として配置し、学生が専門的な学びに円滑に進むことができるように配慮している。教育の基礎的理解に関する科目では「教育課程論」、教科及び教科の指導法に関する科目では、「社会・地歴科教育法」、「日本経済史Ⅰ」「西洋経済史Ⅰ」「道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目では「特別活動の指導法(総合的な学習の時間の指導法を含む)」「教育方法論」「生徒指導・進路指導論」「教育相談の理論と方法」などを履修し、地理歴史科教員として必要な教科指導の方法・授業づくりの力量を身につける。
	後期	経済学科2年次後期では、前期に引き続き、教科及び教科の指導法に関する科目として、「社会・地歴科教育法」、などを履修し、地理歴史科教員として必要な教科指導の方法・授業づくりの力量を深める。
3年次	前期	経済学科3年次前期から、教育の基礎的理解に関する科目では「教育制度論」、教科及び教科の指導法に関する科目として通年科目である「地誌学」などを履修し、教育の理念・歴史及び思想についての知見を深め、さらに、地理歴史科教員に不可欠な教材解釈力を高める。
	後期	経済学科3年次後期から、教育の基礎的理解に関する科目では「教育思想史」「教育心理学」、大学が独自に設定する科目として「教職課題探求実践」、教科及び教科の指導法に関する科目として「経済地理」などとあわせ、副専攻科目を履修し、生徒の心身の発達についての知見を深め、教員の資質として不可欠な対人関係能力や生徒への教育愛を高め、教員としての使命感や責任感を強める。
4年次	前期	経済学科4年次前期から、教育実践に関する科目では「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」、教科及び教科の指導法に関する科目の履修を通して、地理歴史科教員の資質として必要な専門的知識・技能及び授業づくりの力や授業における表現力を獲得する。
	後期	経済学科4年次後期から、教育実践に関する科目では「教職実践演習(中・高)」の履修を通して、教員として必要な資質(使命感・社会性・生徒理解・指導力)や地理歴史科教員として最小限必要な専門的知識・技能が確実に身についたことを確認する。

<経済学部 経済学科> (高等学校一種免許状(公民))

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	経済学科では、市場を基盤とした経済の理論・歴史および政策を教育することで、国内外・地域社会が抱える諸問題に応用可能な解決能力を備えた人材の育成を目指している。この経済学科の教育理念に則り、教職課程履修生は教育の基礎的理解に関する科目では、1年次前期に「教師論」「発達・学習過程論」を履修し、教員に求められる資質能力のうち、特に、教員の職務内容や生徒の発達に対する理解を深めることを到達目標としている。又、教科及び教科の指導法に関する科目では、「政治学」「哲学Ⅰ」などの包括的科目を中心に履修し、教科(公民)指導の基礎的な知見を修得する。
	後期	経済学科1年次後期では、前期に引き続き副専攻科目と主専攻科目(基礎科目)などの履修に加えて、自由選択科目として「キャリアデザイン入門」を開設し、学生各自の進路について熟慮する機会を与え、望ましい勤労観・職業観の形成を図っている。教育の基礎的理解に関する科目では「教育原論」「教育社会学」を履修し、教育の理念・歴史及び思想や社会的・制度的又は経営的事項についての見識を深め、「高校公民科教員」としての資質の向上を目指す。
2年次	前期	経済学科2年次前期から、経済学分野における主たる理論を主専攻科目(基幹科目)として配置し、学生が専門的な学びに円滑に進むことができるように配慮している。教育の基礎的理解に関する科目では「教育課程論」、教科及び教科の指導法に関する科目では、「社会・公民科教育法」「国際経済学Ⅰ」、道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目では「特別活動の指導法(総合的な学習の時間の指導法を含む)」「教育方法論」「生徒指導・進路指導論」「教育相談の理論と方法」などを履修し、公民科教員として必要な教科指導の方法・授業づくりの力量を身につける。
	後期	経済学科2年次後期では、前期に引き続き、教科及び教科の指導法に関する科目として、「社会・公民科教育法」などの履修に加えて「国際経済学Ⅱ」などを履修し、公民科教員として必要な教科指導の方法・授業づくりの力量を深める。
3年次	前期	経済学科3年次前期から、教育の基礎的理解に関する科目では「教育制度論」、教科及び教科の指導法に関する科目として「国際金融」「グローバル経済と日本A」などを履修し、教育の理念・歴史及び思想についての知見を深め、さらに、公民科教員に不可欠な教材解釈力を高める。
	後期	経済学科3年次後期から、教育の基礎的理解に関する科目では「教育思想史」「教育心理学」、大学が独自に設定する科目として「教職課題探求実践」、教科及び教科の指導法に関する科目として「グローバル経済と日本B」などとあわせ、副専攻科目を履修し、生徒の心身の発達についての知見を深め、教員の資質として不可欠な対人関係能力や生徒への教育愛を高め、教員としての使命感や責任感を強める。
4年次	前期	経済学科4年次前期から、教育実践に関する科目では「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」、教科及び教科の指導法に関する科目の履修を通して、公民科教員の資質として必要な専門的知識・技能及び授業づくりの力や授業における表現力を獲得する。
	後期	経済学科4年次後期から、教育実践に関する科目では「教職実践演習(中・高)」の履修を通して、教員として必要な資質(使命感・社会性・生徒理解・指導力)や公民科教員として最小限必要な専門的知識・技能が確実に身についたことを確認する。

<経済学部 経済学科>(高等学校一種免許状(商業))

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	経済学科では、市場を基盤とした経済の理論・歴史および政策を教育することで、国内外・地域社会が抱える諸問題に応用可能な解決能力を備えた人材の育成を目指している。この経済学科の教育理念に則り、教職課程履修生は教育の基礎的理解に関する科目では、1年次前期に「教師論」「発達・学習過程論」を履修し、教員に求められる資質能力のうち、特に、教員の職務内容や生徒の発達に対する理解を深めることを到達目標としている。又、教科及び教科の指導法に関する科目では、「現代経済Ⅰ」「商学概論Ⅰ」などの包括的科目を中心に履修し、教科(商業)指導の基礎的な知見を修得する。
	後期	経済学科1年次後期では、前期に引き続き副専攻科目と主専攻科目(基礎科目)などの履修に加えて、自由選択科目として「キャリアデザイン入門」を開設し、学生各自の進路について熟慮する機会を与え、望ましい勤労観・職業観の形成を図っている。教育の基礎的理解に関する科目では「教育原論」「教育社会学」を履修し、教育の理念・歴史及び思想や社会的・制度的又は経営的事項についての見識を深め、「高校商業科教員」としての資質の向上を目指す。
2年次	前期	経済学科2年次前期から、経済学分野における主たる理論を主専攻科目(基幹科目)として配置し、学生が専門的な学びに円滑に進むことができるように配慮している。教育の基礎的理解に関する科目では「教育課程論」、教科及び教科の指導法に関する科目では、「商業科教育法Ⅰ」「金融論Ⅰ」「貿易論」、道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目では「特別活動の指導法(総合的な学習の時間の指導法を含む)」「教育方法論」「生徒指導・進路指導論」「教育相談の理論と方法」などを履修し、商業科教員として必要な教科指導の方法・授業づくりの力量を身につける。
	後期	経済学科2年次後期から、教科及び教科の指導法に関する科目では、「商業科教育法Ⅱ」「産業組織論Ⅱ」「商学概論Ⅱ」などを履修し、商業科教員として必要な教科指導の方法・授業づくりの力量を深める。
3年次	前期	経済学科3年次前期から、教育の基礎的理解に関する科目では「教育制度論」、教科及び教科の指導法に関する科目として「管理会計論Ⅰ」「原価計算論Ⅰ」などを履修し、教育の理念・歴史及び思想についての知見を深め、さらに、商業科教員に不可欠な教材解釈力を高める。
	後期	経済学科3年次後期から、教育の基礎的理解に関する科目では「教育思想史」「教育心理学」、大学が独自に設定する科目として「教職課題探求実践」などとあわせ、副専攻科目を履修し、生徒の心身の発達についての知見を深め、教員の資質として不可欠な対人関係能力や生徒への教育愛を高め、教員としての使命感や責任感を強める。
4年次	前期	経済学科4年次前期から、教育実践に関する科目では「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」教育実践に関する科目の履修を通して、商業科教員の資質として必要な専門的知識・技能及び授業づくりの力や授業における表現力を獲得する。
	後期	経済学科4年次後期から、教育実践に関する科目では「教職実践演習(中・高)」の履修を通して、教員として必要な資質(使命感・社会性・生徒理解・指導力)や商業科教員として最小限必要な専門的知識・技能が確実に身についたことを確認する。